

掛川地域力向上委員会総会 開催 ～山渡る風 響きわたる～



5月12日(日)午後2時から、掛川小学校体育館において、掛川地域力向上委員会の総会が盛大に執り行われました。

オープニングでは掛川小学校児童と掛川太鼓クラブによる太鼓演奏に続き、以前定光寺でコンサートを行った金亜軍さん作曲、白樺八青さん作詞の「山渡る風」が掛川小学校児童と保護者、地域有志の方々によって披露されました。掛川地区にこんないい歌があることをみなさんに知ってもらい、もっともっと歌い広めていくために企画されました。爽やかな風の中、皆様のご協力によりつつがなく総会は終了しました。

多くの来賓にお越しいただき、ごあいさつをいただきました。



富田会長



伊藤市長



戸田市議会議員



長江市議会議員



柴田市議会議員



新井市議会議員

恒例

第13回

筍まつり

大盛況のうちに終了しました!!



掛川恒例の「里山筍まつり」が、4月28日（日）開かれました。13回目を迎えた当日は、朝から緑の風が心地よく、自然とまつり気分が盛り上がります。

筍を積んだ軽トラックが、午前6時半過ぎには次々と公園に到着。筍の成形、糠の袋詰め、会場の設営と……。当日のスタッフ49人がそれぞれ自分の持場で手際よく準備にかかります。

「今年のタケノコの出ぐあいはどうだろうか」「まだまだのようだ。猪の被害もあるし、とにかく掘ってみないとわからないねー」まつり一週間前まではみんな心配顔で、こんな会話があちらこちらで聞かれたものです。

掘り出し作業の日は、両町で33人のスタッフと、市役所からの応援5人が土のう袋を手に竹藪に入りました。ワカタケ汁担当の女性5人は、公民館で得意の調理です。



会場で300袋の用意ができた時、待つ人に全部行き渡るか心配なほど、列は長く伸びていました。二袋三袋と期待してきた人も多かったようですが、量との関係で一人一袋限りと決めて販売開始。

その隣りではワカタケ汁がふるまわれ、椀を手にした笑顔があふれます。

輪の中に市長さんや市議会議員さんの姿がありましたが、このイベントの光景をどんな風を感じられたでしょうか。



今年の今までにない人出の多さには、スタッフ一同ビックリ仰天——。二袋手にできたのはほんの数人でした。

破格値で新鮮。これが第一の魅力ですが、それに加え季節感いっぱいりの里山です。人を包み込むような掛川の風景が、こんなにも人を吸い寄せたのかも知れません。

自然があって、歴史があって、それを活かす人がいて、地域に活気生まれる。大変と言いつつも、両町の人々が顔を合わせ、一つのイベントを作りあげていく——。

私たちにとっても、力の結びつきを確認しあえた貴重な「里山筍まつり」であったと思います。

《学習田で田起こし》



5月14日(火)、学校サポーターの指導のもと、掛川小学校の学習田の田起こしが行われました。なかなか上手に耕運機がさばけず、四苦八苦する子もありました。

上の運動場 と つんばり学校



昭和 40 年代前半ころまでの上の運動

「上の運動場」とは昭和 44 年(1969)まで掛川小学校の運動会などで使っていた山の上の運動場のことです。定光寺カントリークラブへ行くとき、途中の山頂にあるテニスのクラブハウスが建っているところです。

昭和 20 年代まではここから北の方を望むと下半田川の枝郷である富士の一軒家とその炭焼きの煙がよく見えました。上の運動場はもともと掛川尋常小学校の建設用地で、沓掛(当時)と下半田川から縄で測って決めたといわれています。

明治末期のことです。

用地が決まっていよいよ校舎建設工事が始まりました。ところが大正元年(1912)、完成間近の校舎は9月の台風で全壊してしまい、使われることなく幻の校舎となってしまいました。しかし、翌年にはもう新校舎が下方の谷筋に再建されました。相当な突貫工事だったようです。再び台風で壊れてはとの思いから校舎の両側には6~7本のつかい棒が取り付けられた風変わりな建物でした。見た目よりも堅牢さを優先した結果です。これが

いわゆる「つんばり学校」で、掛川小学校の卒業生で70歳半ばを超えた人なら誰もが忘れることのできない思い出深い校舎です。「つんばり」とはこの地方の言葉で、つかい棒のことをさします。台風で倒壊した校舎の柱など使えるものは再利用したため、通常より幾分背の低い建物だったといえます。他校の児童からは遠足などで通りかかるたびに「掛川学校つんばり学校 ツーンと引いたらガーラガラ！」などとはやしたてられました。

一方、下方の谷あいにてきたつんばり学校は十分な広さの校庭が確保できなかったため、山の上に残った学校用地跡を運動会の時に「上の運動場」と称して使っていました。太平洋戦争末期には一時的にサツマイモ畑として利用したこともあり、鍬で土を掘り起こしていると倒壊した校舎の屋根瓦が出てきたという話も聞きます。

上の運動場付近の松林や雑木林ではマツタケやアオロウジなどのキノコがよく採れました。子どもたちは運動会の時期になると練習の合間に競い合ってキノコ探しに興じたものです。



昭和 20 年代のつんばり学校



現在の上の運動場

昭和 30 年、老朽化したつん張り学校は一部二階建ての木造校舎に改築されました。さらに昭和 45 年には校庭南側下の段に広がっていた田んぼを埋め立てて運動場にしました。これを機に「上の運動場」は使われなくなり、学校から続いていたつづら折りの急な登り坂はいつしか周りの雑木林と同化し、その痕跡すら見つけることができなくなりました。

上の運動場跡は現在民間の土地となっていますが、周りに植えられていた桜の木だけは今も健在で当時を偲ばせます。



ばとかん

国道 248 号線の下半田川町と多治見市市之倉町境の峠に馬頭観音の石仏が祀られています。その昔、尾張の国と美濃の国を行き来する人々や荷馬車を見守ってきました。石仏には寛政四子年（1792）の文字が刻まれています。

地域の人々は昔からこの峠を「ばとかん」と呼んで親しんできました。ばとかんは言うまでもなく「馬頭観音」がなまったものです。

中学生時代に毎日この峠を越えて下半田川集落から岐阜県の市之倉中学校へ歩いて通った富田穂積さん（多治見市在住）から当時の思い出を寄せていただきました。

挿絵は定光寺町の水野金光さん。富田穂積さんと掛川小学校時代の同級生です。

（手書き文字は川井信一さん）



ボク達は県境の峠から「如意屋」の入り口
 一帯を「ばとかん」と呼んでいた。その地名は
 「馬頭観音」に因んでいることを知った。

・夏休みに泳いだ「溜め池」
 ・正月や花火の日に乗った国鉄バスが喘ぎながら
 登った「大きくカーブした急坂」
 ・中高時代に通った「砂利の近道」
 ・県境に祀られた「馬頭観音」の傍まで
 一休みした学校帰り

どれも若き日の懐かし「ばとかん」の光景だ。
 あれからウン十年。

オッカリ様変わりし昔の面影はな「ばとかん」
 が二百年前が峠に佇む「馬頭観音」は
 今日も国道248号を行き来する車や
 人々の安全を祈り見守り続けている。

穂積

「山渡る風」の原稿を募集した際、「馬頭観音」のページに2名の方から応募がありました。せっかく投稿していただいたにもかかわらず重複してしまったため、お一人分が掲載できなくなりました。やまびこ紙面をもって紹介させていただきます。ご了解ください。

「やまびこ」の編集
ごろうさまです。
毎回、楽しみにして
おります。

楽しい誌面ありがとう。

いつも読んで
います。知らない
事が多いので楽
しみにしていま
す。

毎月楽しく読ませ
ていただいています。
引き続きクイズ
もよろしく願いし
ます。

毎号楽しみ！

会員の声

「やまびこ 31号」クイズ
～ご感想・ご意見より～



P2、P6面白
かったです。「玉
蜀黍」わかりまし
た。ありがとう。
ボケ防止です。

やまびこがとて
も楽しみになりま
した。(誌面構
成・内容とも)

クイズも頭の体操。
毎回、たのしみに
しております。

クイズがけっこ
うむずかしかった
です。来年も楽し
みにしています。

地元の身近なことや掛
川小学校やかけがわっ子
ひろばのことをもっとと
りあげてPRしたらいい
と思います。

毎回「やまびこ」の便
りを楽しみに読ませ
ていただいております。こ
のクイズも認知予防に
なります！

問題がよく考え
てありました。家
族で考えました。
楽しかった……

「やまびこ31号」につきまして、皆様のご意見・ご感想をいただき、ありがとうございました。これからの誌面づくりに活用させていただきます。

どんなお声も誌面づくりの貴重な題材です。みなさまのお声をもっとたくさん反映していけたらと思っておりますので、どしどしお声をお寄せいただくと幸いです。